

JAPIO

(c) 2005 JPO & JAPIO. All rights reserved.

00470721 **MAGNETIC PLASTER AND PRODUCTION**

Pub. No.: 54-122721 [JP 54122721 A]

Published: September 22, 1979 (19790922)

Inventor: YAMAOKA KISHIHIRO

Applicant: YAMAOKA KISHIHIRO [000000] (An Individual), JP (Japan)

Application No.: 53-030059 [JP 7830059]

Filed: March 15, 1978 (19780315)

International Class: [2] A61L-015/06; A61K-009/70

JAPIO Class: 14.4 (ORGANIC CHEMISTRY -- Medicine); 14.2 (ORGANIC CHEMISTRY --

High Polymer Molecular Compounds)

⑤Int. Cl.²
A 61 L 15/06
A 61 K 9/70

識別記号 ⑤日本分類
30 C 45

庁内整理番号 ④公開 昭和54年(1979)9月22日
6617—4C
7057—4C

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭磁気を有するプラスターとその製造法

⑯発明者 山岡岸泰
枚方市中宮北町1番33—104

⑰特 願 昭53—30059

⑱出 願 人 山岡岸泰
枚方市中宮北町1番33—104

⑲出 願 昭53(1978)3月15日

明 細 書

1. 発明の名称

磁気を有するプラスターとその製造法

2. 特許請求の範囲

(1) プラスターのゴムノリ状の薬物中にフェライト等の磁気をもたすことの出来る性質の粉体を従来のゴムノリ状の薬物の増量材の代わりに混入し、出来た薬ゴムノリを布に塗布し、出来たプラスターに磁気をもたせて、従来のプラスターの薬理効果と磁化されたマグネタイト等から出る磁力線によつて血行の増進をさす物理効果を相乗さすことを特徴とする磁気を有するプラスター。

(2) フェライト等の磁気をもたすことの出来る性質の粉体を、合成樹脂繊維中に混入させて出来た布を、プラスターの布として使用し、それに薬ゴムノリを塗布し、出来たプラスターに磁気をもたせて従来のプラスターの薬理効果と磁化された布から出る磁力線によつて血行の増進をさす物理効果を相乗さすことを特徴とする磁気を有するプラスター。

(3) 合成樹脂中にフェライト等の磁気をもたすことの出来る性質の粉体を混入させて出来たフィルムに、プラスターの薬ゴムノリを塗布し、出来たプラスターに磁気をもたせて従来のプラスターの薬理効果と磁化されたフィルムから出る磁力線によつて血行の増進をさす物理効果を相乗さすことを特徴とする磁気を有するプラスター。

(4) プラスターの薬ゴムノリ中にフェライト等の磁気をもたすことの出来る性質の粉体を従来のゴムノリ状の薬物の増量材の代わりに混入し、出来た薬ゴムノリを布に塗布したのち、出来たプラスターに磁気をもたせることを特徴とする、磁気を有するプラスターの製造法。

(5) 上記特許請求の範囲第2項と第3項に示す如く、磁気をもたすことの出来る布又はフィルムに、プラスターの薬ゴムノリを塗布したのち、出来たプラスターに磁気をもたせることを特徴とする、磁気を有するプラスターの製造法。

8. 発明の詳細な説明

本発明は、プラスターに血行を増進さす磁気を

結合さして、磁気を有するプラスターとその製造法に関するものである。

従来プラスターはゴムノリ中に配合された薬の有効成分によつて消炎鎮痛効果を発揮し血液の循環をよくする。

又一方磁気を帯びた物体を体に当てると、磁石から出る磁力線は血液の動く運動方向とが直角に交わると電気がおこる、血液は一定の方向に動いているので、これに磁力線が当たると微電圧が血液中に起り、血液は(+)と(-)のイオンに別れ易くなり、それぞれのイオンが活発に動き始めるために血行がよくなる。これらのことは既に知られていることであるが。

本発明はこれらの薬理効果と物理効果を相乗的に効果を発揮させることを目的としている。

本発明の実施態様について、例えば特許請求の範囲の第1項について説明すると、従来のプラスターの薬ゴムノリ中の増量材としてタルクや炭酸カルシウム等を使用している。そこで、本発明はタルク又は炭酸カルシウム等を使用せず、これを

フェライト等の磁気をもたすことの出来る性質の粉体を使用して出来た薬ゴムノリを布に塗布して出来たプラスターは、従来のものとはその薬理効果は変わらないのであるが、本発明はさらにこのプラスターを磁力線の強いところを通過させることによつて、ゴムノリ中のマグネタイトに磁気を残留させることが出来る。そうして出来た磁気を有するプラスターを炎症や痛みのある皮フに密着させて使用する。

本発明のプラスターは、薬理効果と物理効果の相乗作用によつて消炎鎮痛作用が有効的に働き、更らに、薬理効果が作用しなくなつても、尚、磁気の働きによつて患部の血行をよくする物理効果が残っている。したがつて本発明は、従来のプラスターより鎮痛作用の持続性のあるプラスターである。

特許出願人 山 岡 岸 泰

